

避難した特別養護老人ホームの現状（平成27年1月現在）

<p>特養「梅の香」 （南相馬市小高地区） （社福）南相馬福祉会</p>	<p>災害復旧工事が終了し、平成28年4月の避難指示解除準備区域の解除に向けて事業の再開をすすめています。人材の確保にめどが立たない状況です。</p>
<p>特養「リリー園」 （榎葉町） （社福）広葉会</p>	<p>元の施設所在地での再開に向けた準備をすすめて平成 26 年中に建物の改修と内部の環境整備は行っていますが、避難指示解除準備区域の解除時期が正式に発表されないため、再開は未定です。ここでも、職員が減少しており、梅の香と同様に人材確保が課題となっています。</p>
<p>特養「館山荘」 （富岡町） （社福）伸生双葉会</p>	<p>前述の同法人による養護老人ホームは平成25年1月に郡山市に仮施設で再開したものの、職員確保に苦慮しています。特別養護老人ホームの館山荘は郡山市内での再開を検討しているが現在も休止中となっています。</p>
<p>特養「サンライト大熊」 （大熊町） （社福）おおおくま福寿会</p>	<p>法人事務局を会津若松市に移し、いわき市内郷地区に定員 50人の仮施設を整備しようと検討をすすめてきましたが、平成25年9月に理事会で正式に仮設建設を断念。現在は仮設住宅内でサポートセンターと認知症対応グループホームを運営していますが、仮設住宅が復興住宅に移行したときには、元の町村の住民がさらに離散することが想定され、その後の事業展開の見通しは厳しいものとなっています。</p>
<p>特養「オンフル」 （双葉町） （社福）博文会</p>	<p>避難先のいわき市内に仮施設整備の用地を確保し、農地転用や埋蔵文化財の調査も建物設計も終了していますが、資材の高騰が通常の2倍程度に上がっている中で業者をようやく選定し、造成工事に入る予定。</p>
<p>特養「せんだん」 （双葉町） （社福）ふたば福祉会</p>	<p>いわき市の錦町地区の候補地で計画をすすめており、平成 27年度に造成工事に入り、平成28年秋の開所をめざしています。</p>